

【新任の先生のご紹介】



今年の4月に赴任したリハビリテーション科医の片平健人です。広島大学病院、広島市民病院での2年間の勤務をとおして急性期医療について学びつつ、入院された患者さんの、退院した後の生活をよりよいものにするにも興味をもち、当院での勤務を希望しました。脳卒中・脊髄損傷・骨折などの疾患により、程度は違えど日常生活を送る上での障害を抱える患者さんの気持ちに寄り添い、回復支援、また後遺症を踏まえてよりよい生活を送る支援を行いたいと思っています。聞いてよいか不安な事もあるかと思いますが、何でもご相談ください。相談しやすい医師を目標にしています、よろしくお願い致します。

【行事食】



お花見



七夕



土用の丑の日

【今後の予定】

- ・10月8日 体育の日
- ・11月3日 文化の日
- ・12月24日 クリスマス
- ・12月31日 大晦日

【お料理の裏側】

料理長より、人気NO.1のカレーのポイントをお伝えします。タマネギや人参を2～3時間炒め、旨味を引き出すように工夫しています。おいしさの秘訣は、市販のルーだけでなく、当院のレシピの隠し味を加えています。トッピングの牛肉や鶏肉、シーフード、夏野菜などは季節に応じて変えていますのでお楽しみ下さい。一手間かかるメニューですが皆様に喜んでいただき、嬉しく思います。

予定を変更する場合や食事形態によっては対応できない場合がございます。ご了承ください。

第5回 市民公開講座

リハビリテーションについて知識を深め、地域でいきいき生きるために

日時：平成30年12月2日（日） 13:30-15:30（開場13:00）
 会場：広島市立リハビリテーション病院 2階 研修室（広島市安佐南区伴南一丁目39番1号）
 対象：一般市民および医療・保健・福祉関係者

- 【プログラム】 総合司会：広島市立リハビリテーション病院 総看護師長 増岡薫子
 13:30～13:35 開会挨拶：広島市立リハビリテーション病院 病院長 西川公一郎
- 13:35～14:15 講演：「あなたは知っていますか？フレイルのこと～高齢者の寝たきり予防～」
 座長：広島市立リハビリテーション病院 副院長 加世田ゆみ子
 講師：広島市立リハビリテーション病院 病院長（整形外科専門医 リハ専門医）西川公一郎
- 休憩（10分）
- 14:25～14:55 実演：「生活の中でできるフレイル予防体操～いきいき百歳体操～」
 座長：広島市立リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科 技師長 矢田かおり
 講師：広島市立リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科 主任技師 砂堀仁志
- 14:55～15:25 講演：「いつまでも元気に過ごす栄養の知識」
 講師：広島市立リハビリテーション病院 医療科 管理栄養士 林佳世子
- 15:25～15:30 閉会挨拶：広島市立リハビリテーション病院 副院長 加世田ゆみ子



こころ通信 Vol.18

地方独立行政法人 広島市立病院機構
 広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設

〒731-3168 広島市安佐南区伴南一丁目39番1
 TEL(082)848-8001 FAX (082)848-8003
 e-mail riha-hosp@hcho.jp

【ごあいさつ】 病院長 西川 公一郎



平成30年4月から広島市立リハビリテーション病院の病院長として赴任している西川公一郎です。よろしくお願いいたします。

自己紹介をさせていただきます。私は、昭和58年に広島大学を卒業し、そのまま整形外科に入局しましたので、今年で医者になって36年目になります。広島で生まれ、ずっと広島で生活してきました。今年の3月まで同じ広島市立病院機構の広島市民病院で整形外科、特に脊椎脊髄外科に携わってきました。26年間広島市民病院に在籍していました。また、平成17年からリハビリテーション科を兼任してきました。13年間リハビリテーションの仕事をしてきましたが、救急や手術等の急性期医療が中心でした。

本年4月以降、回復期病棟100床のみの当院に赴任して、亜急性期から慢性期の医療にかかわって、いかに急性期以降の医療が重要であるかを再確認しています。

高齢人口増加、少子化、青壮年人口減少から、我が国の医療が将来破綻していくと危惧されています。将来の医療を確保するため、地域医療構想が策定されています。平成27年から28年度にかけて都道府県が地域医療構想を策定し、平成30年度以降は大きな変化があると言われています。具体的には病院統合や病床再編が進んでいくものと思われます。経済成長が望めないなかで、持続して提供できる医療の仕組みを創っていくためには、重要なことと思います。

将来安心できる医療制度を作るために、広島市立リハビリテーション病院と自立訓練施設には、急性期医療から在宅に向けてスムーズに橋渡しをする使命があります。病気や怪我にあっても、なるべく早く元の生活に戻れるよう、障害が残っても地域で生活していけるように貢献していきたいと思えます。

そのため、本年度の目標を以下の6項目としています。

- (1) 急性期病院との連携(円滑な入院の調整)
- (2) 生活期との連携(退院支援の推進、地域連携パスを活用した情報共有の向上)
- (3) 在宅療養への移行支援(外来リハビリと訪問リハビリ、訪問看護の拡充)
- (4) 認知症を合併した患者さんのケアの推進
- (5) 地域リハビリ支援(地域リハビリ活動支援、医療介護連携の推進)
- (6) 自立訓練施設の利用促進(関係医療機関、福祉施設との連携強化)

地方独立行政法人となって5年目を迎えました。自治体病院として、健全な経営を維持しつつ、市民の皆様に信頼されなおかつ満足していただける医療を提供していくように、全職員と努力していきたいと考えています。

PICKUP【介護福祉士の仕事】



介護福祉士が正規職員となり1年が経ちました。病棟介護福祉士の役割を知っておられる方は少ないと思います。介護福祉士は、『専門的な知識や技術を持ち、身体上・精神上的の障害がある方や日常生活に支障のある方に対して、入浴・排泄・食事などの介護や介護に関する指導を行う人』と定義されています。

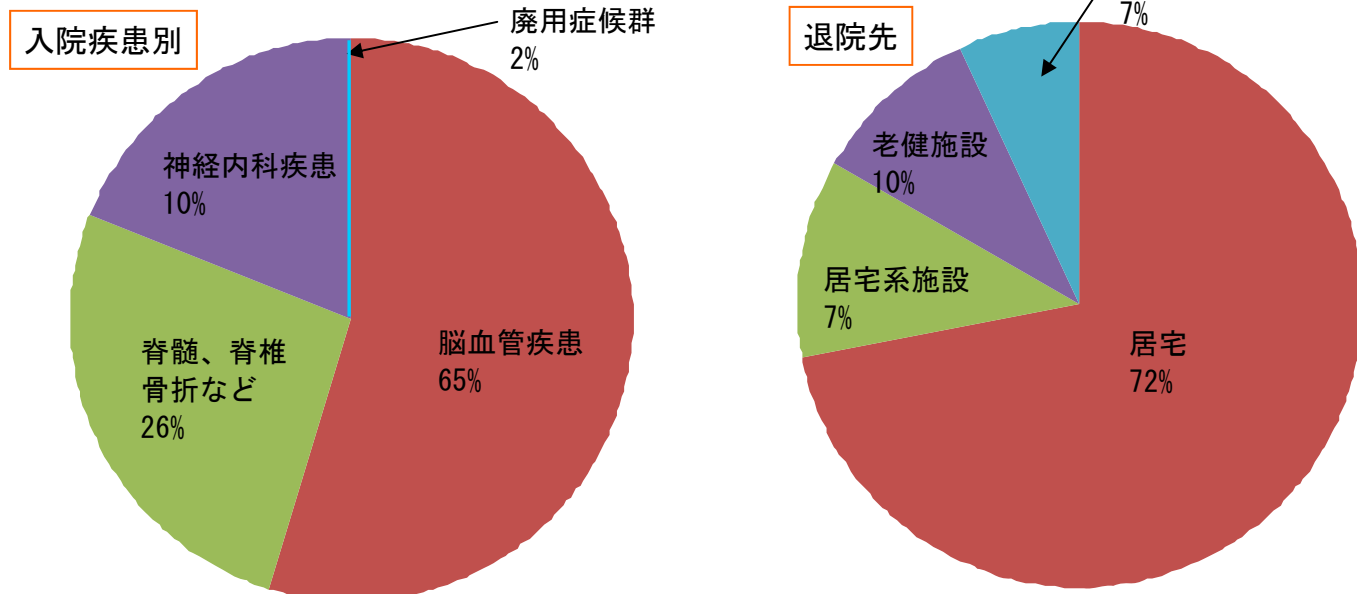
病棟介護福祉士は、患者さんの体に直接触れる身体介護を行いながら、筋力アップの立ち座り訓練や飲み込みの機能を向上するための嚥下体操、個別訓練の介入、自立に向けた入浴動作の介入などを積極的に行い、看護師と協働するため進んで情報発信を行っています。

回復期リハは、目覚ましい回復が見られる現場です。介護福祉士も患者さんの受け持ちをさせてもらっています。患者さんが必要とする介護を提供するために、患者さんが発する言葉に耳を傾け、患者さんの状態を適切に把握するよう心がけています。介護過程でアセスメントすることは、生活を支援していく上で特に重要な部分です。アセスメント力を向上させるために院内研修会への参加や毎月介護福祉士主催の研修を開き、専門的な知識や技術を向上するために自己研鑽しています。

リハビリ時間以外の病棟生活の中で患者さんの自立した生活を目指し、一人一人の患者さんに合わせた生活支援の介入を行っていきこうと思っています。当院に入院して良かったと思っただけのよう、介護士一同協力し合い日々努力しています。

介護士一同

【診療実績 平成30年5月～7月】



平均在院日数（1患者あたりの平均入院日数）	
運動器リハビリテーション	60.0日
脳血管リハビリテーション	85.3日

患者1日あたりの平均リハ単位数（回復期リハビリ適応患者）	8.7単位 1単位：20分
------------------------------	------------------

* 当院はリハビリテーションを365日提供しております。 2

【特集】自立訓練施設で生活訓練をはじめました！！

自立訓練施設は、これまでの機能訓練、施設入所支援、短期入所に加え、高次脳機能障害がある方を対象として、今年の6月から「生活訓練」を開始しました。

「生活訓練」では、病気や事故により障害が残り、その中でも高次脳機能障害がある方に対して、自己管理能力や社会生活力の向上を目指すことを目的としています。

～高次脳機能障害とは～

高次脳機能障害とは病気や事故等による大脳の部分的な損傷により、言語、思考、記憶、学習、注意などの機能に障害が起こった状態をいいます。



生活訓練の特徴

★職員と「1日の目標とスケジュールの確認」とプログラム終了後の「振り返り」を行います。

主に記憶障害、遂行機能障害のある方に対し、日々の訓練の目的意識を高める為に、スケジュール等をメモすることの習慣づけ、当日のスケジュールの確認、当日の目標の確認等を行います。プログラム終了後には、1日の活動の中で取るべき内容のメモを正しく取れているか、スケジュールの変更点を修正できているか、目標に対しての達成度、訓練の感想等の確認を行い、次回訓練の目的へつなげています。

★「高次脳機能改善グループ」プログラムに参加していただきます。

「高次脳機能改善グループ」は集団訓練で、この訓練では、「高次脳機能とは何かを学ぶ」、「仕事や生活での困りごとを克服するための方法を考え実践する」、「コミュニケーション場面を想定し練習することでコミュニケーションスキルを習得する」といった内容に取り組んでいただきます。また、参加された利用者間でディスカッションしていただきながらプログラムを進めています。

★高次脳機能改善プログラムに参加されている方に聞きました★



高次脳機能改善グループのプログラム

※この日は4名の方が参加。皆さん真剣な雰囲気です。

- Q1. 利用終了後の目標は？
就職を目指しています。
- Q2. 高次脳機能改善プログラムに参加した感想は？
高次脳機能障害について勉強になっています。
記憶できない、2つのことが同時にできない、イレギュラーなことなどに対応できなくなっていることなどが病気のせいだったとよく理解できました。

